
 学 会 記 事

第 13 回新潟 GHP 研究会

日 時 平成 23 年 3 月 5 日 (土)
午後 3 時 30 分～
会 場 ANA クラウンプラザホテル新潟

I. 一 般 演 題

1 Duloxetine による脳波異常からせん妄をきたしたアルツハイマー型認知症の 1 例

斎藤 摩美・鈴木雄太郎・染矢 俊幸

 新潟大学大学院医歯学総合研究科
精神医学分野

SSRI 及び SNRI の離脱によるせん妄についてはいくつかの報告があるが、これら薬剤の常用量での投与が直接的誘引となったせん妄については、抗コリン作用の強い paroxetine 以外ではほとんどなく、我々の知る限り duloxetine については国内外において報告はない。今回我々は、duloxetine の常用量投与によって脳波に徐波化が出現し、その後多剤併用によってせん妄が誘発され、duloxetine 中止によって速やかにせん妄及び脳波異常が改善したアルツハイマー型認知症の 1 例を経験したので報告する。Duloxetine について中枢系の副作用はこれまでほとんど報告されていなかったが、今後中枢系副作用については更に詳細な検討が必要であると考えられる。

2 局所脳血流低下と認知機能低下を認めた単純型統合失調症の症例

 國塚 拓郎・鈴木雄太郎・斎藤 摩美
染矢 俊幸

新潟大学医歯学総合病院精神科

3 統合失調症と自然治癒

東島 啓二

田宮病院

いつの頃からか私は、統合失調症の治療は薬物療法に精神療法的配慮を加味して行うのを常としてきた。最近薬を用いることなく軽快した症例を経験した。厳密に言うと薬は使用したのであるが患者は殆んど飲まなかった。そして病気の軽快、病識の出現に薬の影響は殆んど認められなかったという意である。治療中は自然治癒したものと思っていた。これをまとめながらビックリしたのであるが、この治療はちゃんと精神療法になっていた。無意識に精神療法を行っていたのである。30 数年前にも同じ様な体験をした。前主治医の転勤により引き継いだ 30 歳位の妊婦であった。薬はナーベン (10 mg) 3T が入っていた。若い先生方はご存じ無いであろうが、このナーベンという薬は陰性症状に効くという触れ込みで当時発売されていた最大用量 60 mg の薬である。ところがこの薬は精神疾患には全く効かなかった。あんまり評判が悪かった為か間もなく発売中止になった。患者は妊娠 8 ヶ月位であった。妊娠中という事もあったと思うがナーベン以外は絶対に飲まない、増量するのも嫌だと言い張った。幻覚妄想が盛んで、「自分は病気じゃないのだから、退院させる」と私を毎日 2 時間、激しく責め立てた。私は窮した。苦し紛れにユーモアを用い始めた。驚いたことに次第に穏やかになり遂には治ってしまった。退院する時に“あの悪いときの事を今、どう思う”と聞いたら「イヤー先生恥ずかしいから言わないでよ。」と顔を赤らめた。実に不思議だと一人で考え続けていた。しかしよく分か